

御土居跡発掘調査報道発表資料

2023年 12月 20日
公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所在地：京都市下京区朱雀分木町19-2
調査期間：2023年9月25日～2024年1月31日(予定)
調査面積：800㎡(1～3区の合計面積、3区は2024年1月調査予定)

1. はじめに

本調査は、京都市中央卸売市場第一市場（以下、中央市場）の施設整備事業に伴うもので、調査地は平安京跡・御土居跡にあたる。中央市場構内における発掘調査は今回で16回目となる。今回の報道発表は御土居の堀に関するものである。

御土居は、天正19年(1591)に豊臣秀吉が築造した京都の街を囲む土塁と堀である(図1)。御土居の造営により初めて洛中と洛外が明確に分離した。全長は22.5km、北は鷹峯、東は鴨川、西は北野天満宮、南は東寺に及ぶ。史料から、約3カ月で完成したことがわかっており、当時は「土居堀」や「京惣堀」等と呼ばれていた。

2. 発掘調査の成果

調査では、1・2区で御土居の堀を検出した(図2)。検出した堀は、東西幅5m以上、深さは1.3～2.0mである。深さについては、堀の両端が調査区外となるため正確には不明であるが、周辺調査で確認している深さとほぼ同じである(図4)。堀には泥が厚く堆積しており、水堀であったことがわかる。

堀底では、東西・南北方向に交差する畝状の高まりを確認した(図3、写真1・2)。畝状高まりは、基盤層を削り出して成形されている。規模は、高さが堀底面から0.2～0.7m、上面幅0.2～2.0m、下面幅0.8～4.0mで、断面形はカマボコ形となる。高まりの間隔は、約2～3.5mの比較的狭い部分と約7mの広い部分と2つに分かれる。このような堀底に畝状高まりがあるという特徴は、城郭の障子堀と同じである。

3. まとめ

今回の調査では、御土居の堀の一部が障子堀であることが明らかとなった。障子堀の機能の一つに、敵の侵入時に際して進行を妨げる防御にある。今回の調査例のように水堀で畝状高まり(障壁)の間に泥が堆積することで、その機能はより高まったと考えられる。安土桃山時代から江戸時代、今回の調査地の南東約350mの地点には、京七口の一つ丹波口が存在しており、その関連性も想定できる(図5)。

これまで実施した御土居南半部の調査でも、堀底の畝状高まりを確認していた(図1:調査3・4・8・13・28・30)。しかし、明瞭な形で検出できなかったものや、畝(障壁)の方向が堀と直交方向でその間隔も10m程と広いものなど、堀掘削時の作業単位や作業通路の可能性などが考えられていたが、その性格については判然としていなかった。しかし今回の発見により、それらの調査成果についても再検討が必要となった。また、御土居北半部の調査では堀底の形状が分かる調査事例はそれほど多くはないが、調査18では、堀底は平坦であることが確認されている。御土居の堀底の形状は、場所によって異なっていたとみられる。

御土居の造営の目的に関しては、これまで①京都の町の防衛(防御施設)、②鴨川・天神川に対する堤防(治水施設)、③犯罪者が京都の町から逃走することを防ぐ(治安施設)など、様々な考えが提示されている。今回の調査によって、防御機能を備えた堀底を発見したことは、御土居の造営目的や機能、丹波口を含む調査地周辺の地域性を考える上で重要な成果といえる。

※用語解説：障子堀

障子堀とは、堀底が畝状の高まり(障壁)などの障害物で仕切られた堀のことである。空堀・水堀ともに存在する。障子はもともと「隔てるもの」という意味である。障壁の機能は、第一に「堀底での人の移動を阻害すること」であり、水堀の場合は障壁間に泥が溜まることによって、さらにその機能を高めることができる。この他に貯水や水量の調整、堀掘削時の作業用通路としての機能なども考えられている。

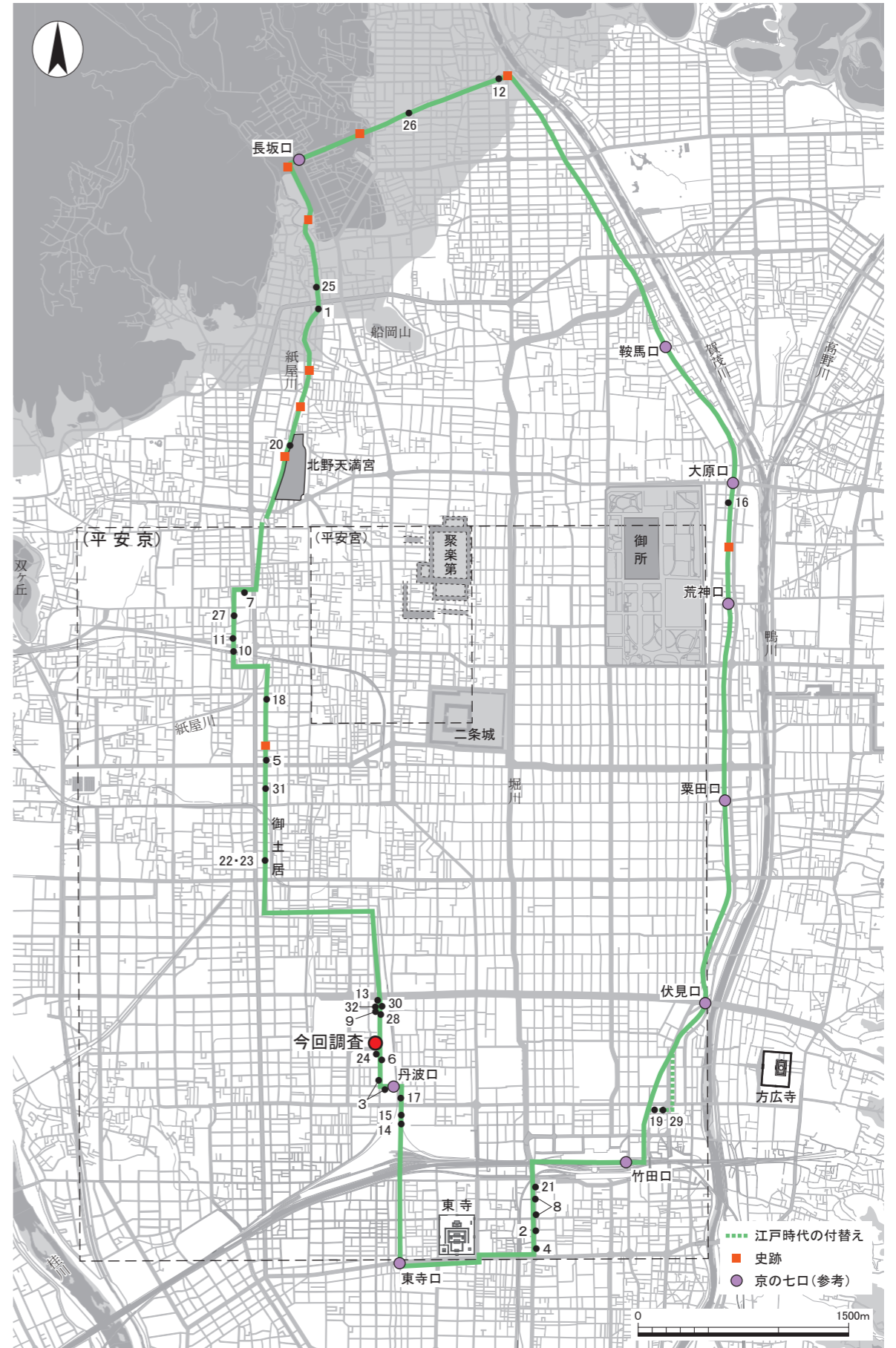


図1 御土居主要調査地点位置図(1:40,000)

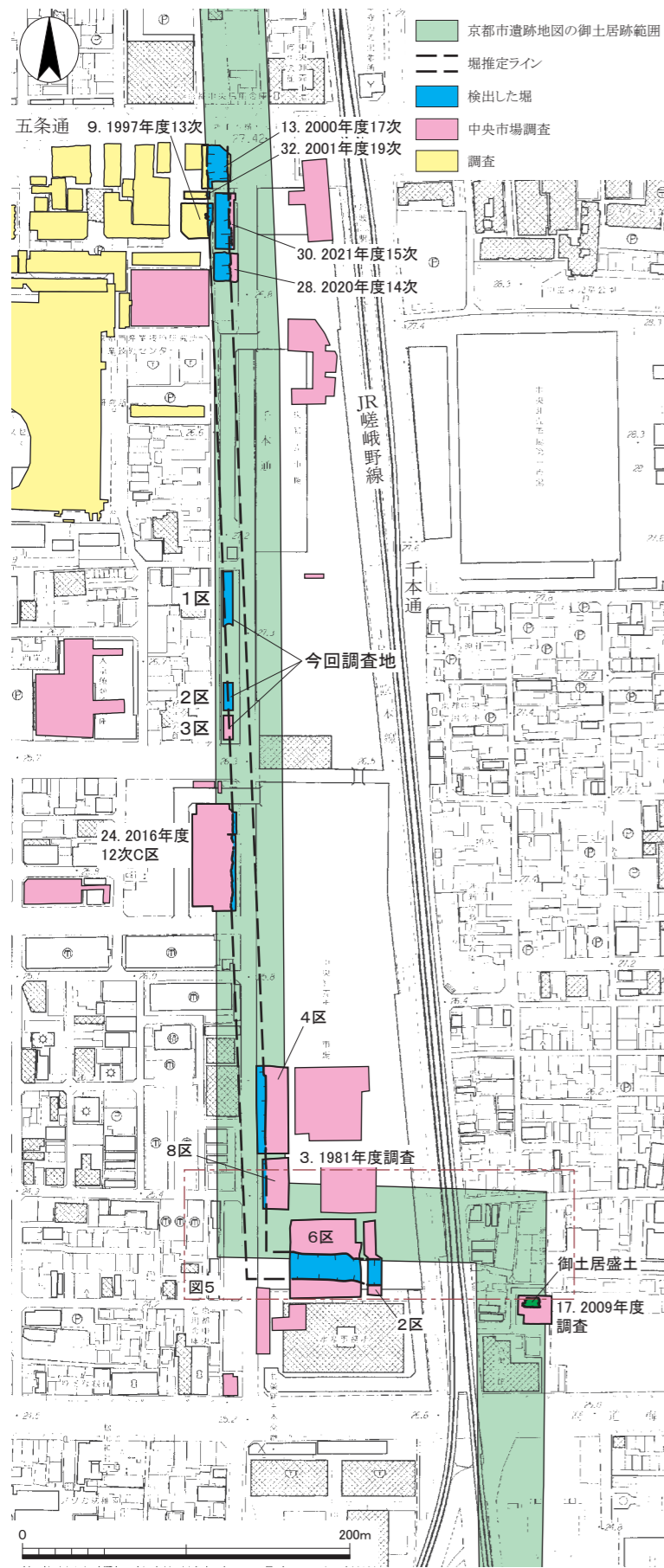


図2 調査地点・周辺調査位置図(1:4,000)

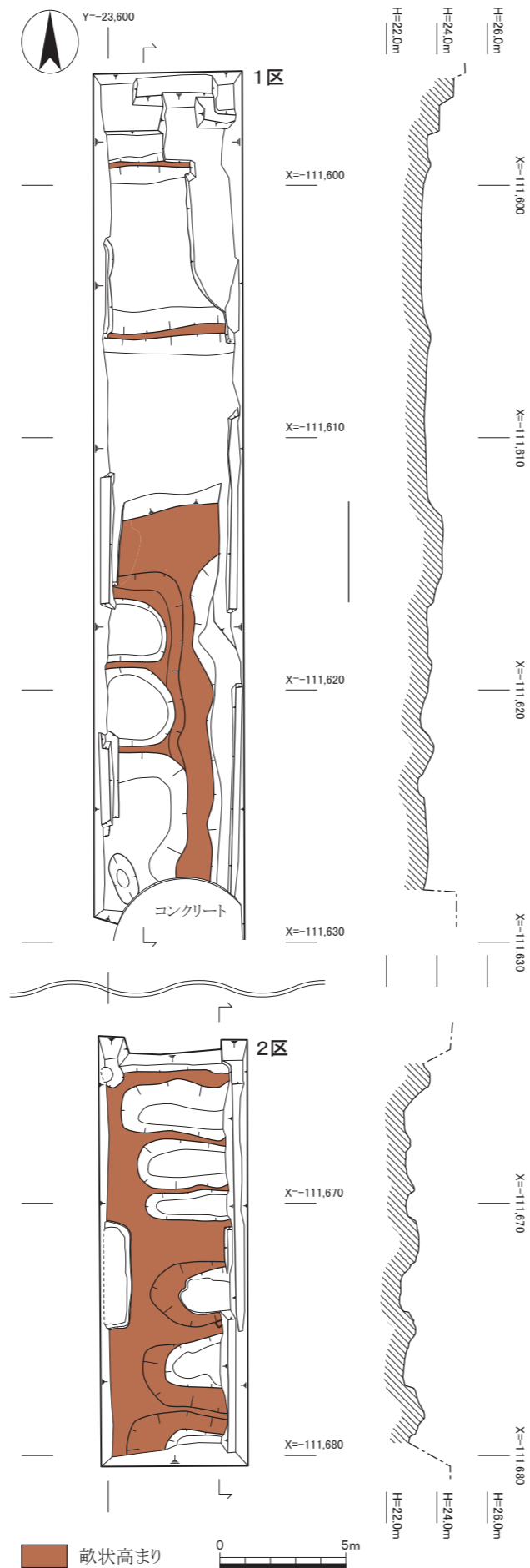


図3 調査区実測図(1:250)

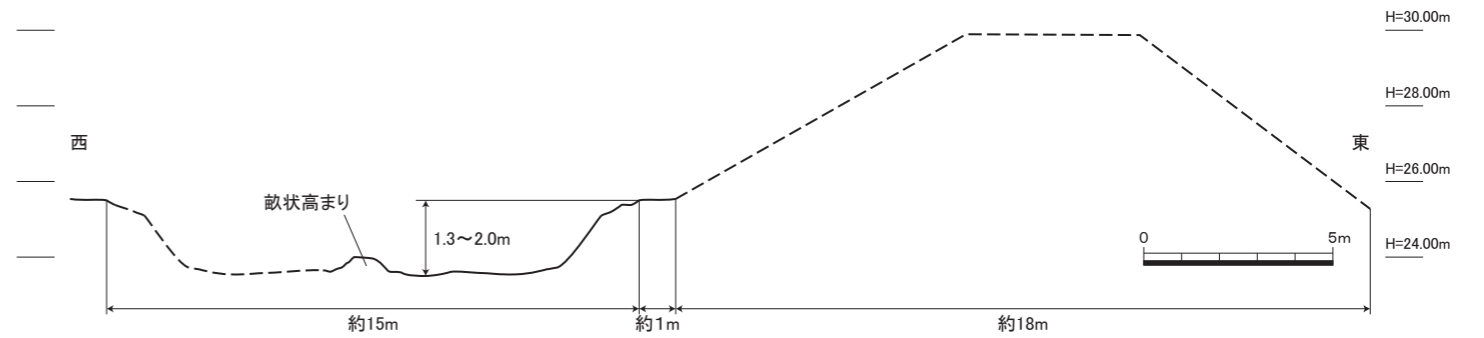


図4 周辺調査からの御土居復元模式図(1:200)

御土居関係略年表

年号	西暦	事柄
天正10年	1582	6/2本能寺の変。6/13山崎の戦い
天正11年	1583	大坂城築城開始。
天正13年	1585	秀吉、関白となる。
天正14年	1586	聚楽第着工(天正15年完成)。
天正16年	1588	方広寺大仏殿着工。
天正18年	1590	後北条氏滅亡。秀吉天下統一なる。京都において天正地割実施。
天正19年	1591	御土居の築造、閏1月着工、4月にほぼ完成。寺町を建設。
文禄元年	1592	文禄の役始まる。伏見城(指月)築城開始。
文禄4年	1595	豊臣秀次自害、聚楽第破却。
文禄5年	1596	7月京都・伏見で大地震、伏見城倒壊。木幡山に再建開始、10月本丸完成。
慶長2年	1597	慶長の役始まる。
慶長3年	1598	8/18秀吉、伏見城にて死去。
慶長5年	1600	関ヶ原の戦い。
慶長8年	1603	京都所司代を設置。
寛永18年	1641	花街・島原が成立。六条三筋町からの移転による。
寛文8年	1668	京都町奉行設置。
寛文9年	1669	御土居の管理、角倉家に委託される(寛政3年(1791)まで)。



図5 丹波口周辺の御土居『京都惣曲輪御土居絵図』(元禄15年(1702)作成、京都大学総合博物館所蔵)



写真1 1区全景(北から)



写真2 2区全景(北から)